

【教育目標】 一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かい教育を行い、自信と意欲を育てることによりもてる力を伸ばし、社会において自立的に生きていく基礎を培う

【評価基準】 A：達成できた（あてはまる） B：概ね達成できた（どちらかといえばあてはまる） C：あまり達成できていない（どちらかといえばあてはまらない） D：達成できていない（あてはまらない）

本年度の重点目標		推進担当	達成目標	具体的な取り組み	反省	保護者等評価	教職員自己評価	評価	考察	改善策
(1)安全確保及び危機管理の充実	・児童生徒が、自ら身を守る力を育むための安全教育の充実を図る。	児童生徒指導部	・児童生徒が自らの身の安全を守る力を高めることができるよう安全教育に取り組む。	・自主通学生との通学経路や交通手段を把握し、交通ルールや公共交通機関の安全な利用等について指導する。 ・児童生徒の実態に応じて交通安全指導(交通安全教室)を実施する。	・「通学方法等一覧」を作成し、高等部生徒の通学方法や経路等を把握し、自転車通学生に自転車点検や交通標識、危険予知トレーニングの指導を行うことができた。公共交通機関の安全な利用についても下校時に高等部職員からも指導できた。 ・小学部6年、高等部1年では、交通安全教室(交通安全指導)を設定し実施できた。(中学部では授業の中で実施)	A+B 94.5%	A+B 99.4%	A	・保護者等、教職員とも、概ね良い評価を得ることができている。児童生徒指導部の交通安全に関する安全教育や健康安全指導部の地震、火災、竜巻などに関する安全教育の取り組みが成され、周知されているためと考えられる。しかし、安全教育の内容はこれだけではないことや、実施しているが、周知が十分でないため、達成に至っていないと感じている保護者等もいると思われる。	・児童生徒指導部と健康安全指導部とで今年度取り組んだ交通安全や災害安全の安全教育を継続しながら、併せて保護者等からの意見を受けて声掛けや誘拐など犯罪被害の防止など生活に関する安全教育についても実施していき、児童生徒の力を高めていく。また、取り組みを保護者会やホームページ等で保護者や地域に周知していく。
	・教職員一人一人が危機管理意識を高くもち、安全な環境作り、組織的な対応をする。	健康安全指導部	・研修や訓練をととして、教職員一人一人の危機管理意識の向上を図る。	・各種訓練において、状況に応じた身を守る方法や安全に避難する方法を確認する。 ・組織的な対応をとれるように、医療的ケア児緊急時対応訓練、学校給食事故訓練、危機管理に関する校内研修等を実施する。	・より実践に近い内容を盛り込み、訓練等を実施することができた。シミュレーション研修では、事後アンケートの回答者全員から危機管理意識が高まったという回答が得られた。今後は、さらに実践的な内容で取り組み、有事の際に組織的に対応できるよう実施方法や内容等を改善、工夫していく。また、情報の共有を図る。	A+B 96.2%	A+B 99.4%	A	・保護者等、教職員とも、高い評価を得ることができている。各種訓練を通しての安全確保の確認や安全な環境作り等の取り組みが周知されていると考えられる。また、訓練や教職員向けの研修において、より実践に近い状況で実施できたことが一因であると考えられる。	・今後もより実践的な内容で訓練や研修を実施し、危機管理意識を高め、組織的に対応できるようにする。保護者等への周知、理解を深めるために、児童生徒の訓練の様子を発信していくとともに、教職員の訓練や研修の様子、安全に関する取り組み等についてもHP等をととして発信していく。
(2)自信と意欲を育てる指導の充実	・ICT活用を含む、興味関心を生かした教材教具の工夫を行い、授業の改善に生かす。	学習指導部 研修部	・興味関心を生かした教材教具の工夫やICTの活用を促進し、授業改善に生かすことができる。	・ICT活用に関する研修会を実施する。 ・基本研修(5年目・中堅)の授業研究会を学年のワークショップ型で行う。児童の実態を知る同学年の教員で話し合うことで、効果的な指導法や授業の改善点について検討する。 ・格納場所を明確にすることで、ICT教材を含む、教材の共有化を図るとともに、活用を推進する。	・ICTに関する研修や、活用の実践例紹介などの機会を設けた。校内で様々な取組が実施され、興味関心を生かし、分かりやすい授業教材として活用が進んでいることが伺える。一方で、教材の共有化を図るため、保管場所や保管方法について整理する必要があると考える。	A+B 90.1%	A+B 98.7%	B	・おおむね高い評価を得られた。教職員の評価よりも保護者の評価が低くなっているが、ICTを活用した学習の取り組みや成果が十分に保護者に伝わっていないことが要因の一つではないか、と考えられる。	・今後も研修や実践紹介などの機会を設け、教職員の資質向上を図る。より活用を進めるため、教材の保管や共有などをICT支援係と連携しながら進めていく。保護者に向けICTを活用した実践の様子をHPや連絡帳、授業参観などで知っていただく機会を設ける。
	・学習内容や評価の工夫を行いながら、各学部の研究主題に基づく研究を進める。		・各学部が研究主題に基づき研究を進める中で、児童生徒が自信と意欲をもって主体的に学ぶ授業づくりができる。	・年3回の研究日进行ける。研究推進委員会を中心に事例研や授業実践を進める。 ・年度末報告会で成果を全職員で共有し、授業改善に生かす。	・各学部の研究主題に基づき、児童が主体的に学べる授業作りを検討し実践することができた。授業検討会を通して、授業改善の視点についても教師間で共有することができ、他の教科等授業にも反映できたと考えている。	A+B 95.2%	A+B 99.4%	A	・保護者、教職員とも高い評価が得られている。保護者にも児童生徒の様子から、自信と意欲を育てる指導については理解を得られていると考える。教職員はほぼ全員が目標を達成できたと感じており、校内研究や授業の中で、より良い授業改善と実践ができたと考ええる。	・校内研究を通して、児童が主体的に学べる授業作りの検討を今後も継続していく。また、研究の成果や日頃の授業の様子など、HP等で保護者へ発信していく。
(3)家庭及び地域との連携の強化	・地域の人材、学校、団体、自然、施設、イベント等を生かした学習活動を工夫する。	相談支援部	・地域のセンター的な役割が果たせるように、センター的機能充実事業について啓発を図る。	・センター的機能充実事業について、関係機関への周知をしたり、ホームページを随時更新したりする。(幼保、小中・高等学校等への支援、公開研修会、体験学習、早期教育相談等)	・センター的機能充実事業について、メールやホームページを活用し、地域に啓発を図ることができた。学校等支援の要請が増えたり、公開研修会を多くの人にみてもらうことができたりなど、一定の成果が得られた。	A+B 92.5%	A+B 94.9%	B	・保護者や教職員評価の数値としては表れにくいだが、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことと、地域のセンターとしての役割が定着してきたことで、早期教育相談や幼保、小・中学校への相談件数が増加してきており、ニーズが高まっていると考える。	・引き続き、地域の幼児とその保護者、幼保、小・中・高等学校の教職員のニーズに合わせた相談や支援、研修会や情報の発信等を行っていく。また、校内の人材の活用や新たな人材の育成をしていく。
		渉外部	・地域の人材や施設の活用を進めることができる。	・地域の行事について活動の様子を保護者等に発信していく。 ・各学部での地域での取り組みについて洗い出し、更なる活用の依頼。 ・ボランティア養成講座を通して、新規のボランティアを育成する。 ・ボランティアの活動内容について、職員の意見を収集し、新たなボランティア活動の内容を創設する。	・地域のイベントや活動の様子をメールや便り等で随時発信することができた。 ・各学部や校務分掌での地域活動の取り組みを一覧表にまとめて職員に周知できた。 ・多くの方にボランティア養成講座を受講・登録していただくことができた。 ・新たな活動内容の検討については今後実施予定である。	A 48.8%	A 35.7%	B	・おおむね高い評価が得られている。養成講座の募集について新聞に掲載いただいて新規ボランティアの育成を行い、さらに学校教育活動の様々な場面で登録ボランティアの活用の継続が一因と考える。	・引き続き人材の育成をしていく。学校周辺の施設や人材の活用についてさらに検討していく。
	・行事や授業の様子など、家庭や地域への情報発信の充実を図る。	教務部	・ホームページの工夫により、家庭や地域への情報発信力を高める。	・ホームページが閲覧しやすいように情報の掲載方法を工夫する。 ・ICT支援員と連携し、児童生徒の様子など安全に情報を発信できるようにする。 ・各学部、分掌部と連携し、掲載内容の充実を図る。 ・保護者等の閲覧内容などの情報を集め、必要な情報が発信できるように努める。	・保護者アンケートを行い、HPの閲覧内容や回数、必要としている情報など情報収集することができた。 ・各学部、分掌部と連携し見やすいHPとなるよう内容について整理した。 ・ICT支援員やSchITにもご協力いただきHPのリニューアルを行うことができた。 ・今後掲載内容の充実を図っていく。			B	・おおむね高い評価であるが、保護者の方が教職員に比べて低い評価となっている。本校の取組について保護者に十分に周知されていないのではないかと考える。HPの掲載内容の充実を図っている段階であり、更新されていることを保護者をご存じないため、周知に至らないことが一因でもあるのではないかと。	・各学部、分掌部と連携しながら本校の取組が伝わるようにHPの掲載内容の充実を図る。 ・HPの閲覧回数を増やすことができるように、保護者からの御意見をもとに一斉メールで更新をお知らせする等働きかけていく。
		特別活動部	・児童生徒会の行事だけでなく、役員活動(えがお集会など)についてもホームページに掲載し、保護者等への情報発信の充実を図る。	・児童生徒会総会、児童生徒会役員選挙等の行事のほか、児童生徒会のテーマに基づく活動についても、学期に2回程度は発信する。	・学期に2回の発信はできていないが、児童生徒会役員の取組や行事だけでなく、部活動や諸大会についてもHPで発信できた。	A+B 93.2%	A+B 98.7%	B	・保護者等の方が教職員に比べて低い評価となっているが、おおむね高い評価である。一斉メールでの各種イベントの案内では、メールを見て参加した児童生徒と御家族もいるとの話も聞いており、家庭と地域との連携を進める一助となった。	・HPへの掲載だけでなく、PTA広報紙「ふよう」や「富屋桜」等にも掲載する場所を設けていただきながら、継続して取り組む。(今年度は、特教振だよりと富屋桜に掲載) ・各種イベントのお知らせについては今後も一斉メールで発信していく。
		進路指導部	・地域での就業体験活動や産業現場等における実習の様子の情報発信の充実を図る。 ・地域の人材を活用して、保護者等会で進路や福祉サービスについて説明し、家庭への情報発信の充実を図る。	・就業体験活動や産業現場等における実習の様子を進路指導のたよりやホームページに掲載する。 ・保護者等会では、地域の人材を活用して、福祉サービス等について説明し、情報発信する。	・就業体験活動や産業現場等における実習の様子を「ふよう」や進路指導のたより、ホームページにも掲載した。 ・保護者等会では、宇都宮市の障害者相談支援専門員に來校していただき、講演をし、情報発信を行うことができた。	A 49.1%	A 60.5%	B	・おおむね高い評価であるが、保護者の方が教職員に比べて低い評価となっている。各種媒体を使い情報発信をしても、興味をもってもらえる情報かわかりやすいかどうかが保護者の評価の一因ではないかと。	・HPへの掲載やメール配信などを継続し、保護者等会などで実際の様子を動画で見せるなどしていく。アンケートで保護者のニーズを把握し、適時、情報発信をしていく。